

vol.

105

2021

9/24 発行



いちのへ社協だより

ゆいっこ



CONTENTS

赤い羽根共同募金運動スタート	2	できごとフラッシュ	8～9
第2期一戸町地域福祉活動計画策定	3	つながる地域つなぐて・と・て	10
夫婦長寿祝い記念品贈呈事業	4～5	社協からのお知らせ	11
特集認知症にやさしいまちづくり	6～7	Topics	12

題号"ゆいっこ"は、古くは若者たちによる共同農作業という素朴な集団の呼称として使われていましたが、この互助精神が福祉の精神そのものと思い、社会福祉協議会広報の題名にしました。

第2期 一戸町地域福祉活動計画

(令和3年度～令和7年度)

一戸町社会福祉協議会は、一戸町が策定した第2期一戸町地域福祉計画とともに第2期一戸町地域福祉活動計画を策定しました。

地域共生社会の実現に向け、平成28年に策定した第1期活動計画を見直し、町と社協が協働・連携し取り組むために基本理念と基本方針を共有し一体的な策定を図りました。

地域住民をはじめとする地域福祉の推進に関わるさまざまな担い手の参加と協力を得ながら、取り組みを展開していきます。

基本理念

誰もが互いに
尊重しあい、
安心して健康に
暮らすことの
できるまちづくり



基本方針1

安心・安全な暮らしを支える
環境づくり



地域支え合いマップづくりの推進

①ネットワークづくりの推進

- 一戸町地域包括ケア会議への参加
- 二戸地域障害者自立支援協議会相談支援部会への参加
- 認知症初期集中支援チームの運営と定例チーム会議の開催(新規)

②地域で支える仕組みづくり

- 地域包括ケアシステム検討委員会の開催
- 「地域支えあいマップづくり」モデル地区の推進(新規)
- 訪問助け合いボランティア養成及び活動支援
- 高齢者等見守りネットワークの設置及び拡充
- 住民のニーズ把握、意識調査の実施



基本方針2

地域福祉を担う人づくり・
地域づくり



訪問助け合いボランティア養成による住民参加の促進

①地域活動の促進

- ふれあいいきいきサロン事業への支援
- オレンジカフェさくらの会への協力および多世代交流カフェまるっとの企画・運営
- 家族介護者交流会への協力

②住民参加の促進

- 一戸町ボランティアセンターの機能強化
- 一戸町子供会連合会への助成
- 一戸町いきいきシルバースポーツ大会の開催

③意識啓発・人材育成

- ふれあい体験学習の開催
- 福祉教育推進事業(キャップハンディ体験など)の実施
- 認知症サポーター養成とチームオレンジの立上げ(新規)
- 生活支援コーディネーターと認知症地域支援推進員との連携強化と資質向上



基本方針3

福祉サービスを利用
しやすい仕組みづくり



福祉サービスの普及啓発パンフレット作成

①福祉サービスの普及啓発

- 広報誌「ゆいっこ」の発行
- ICT(情報通信技術)を活用した見守りネットワークサービスの拡充
- 認知症ケアパスの策定
- 認知症セミナーの開催

②身近な相談支援の充実

- ふれあい総合相談所の開設
- 民生委員・児童委員の活動への支援
- 生活困窮者自立支援事業への協力

③権利擁護の推進

- 成年後見制度に関する相談の受付
- 日常生活自立支援事業(あんしんねっと)の実施
- 権利擁護ネットワーク会議への参加
- 法人後見事業の実施(新規)



「赤い羽根共同募金運動」は、やさしい気持ちを集める募金活動です。

本年も10月1日より、赤い羽根共同募金運動が全国一斉にスタートします。運動期間中は、法人及び大口募金は社協役員または民生委員が、戸別募金は行政連絡員または班長等が、募金をお願いのため皆さまの自宅にお伺いします。

ご家庭で、学校で、職場で、店舗の募金箱で。一人ひとりのやさしさが、みなさんの助け合いが、わたしたちの住むまち「いちのへ」の「安心」や「これから」につながっていきます。

共同募金は気軽にできる身近なボランティア活動です。皆さまからのあたたかいご支援をお願いいたします。



令和3年度目標金額

総額 3,650,000円

皆様からお寄せいただく募金は、岩手県共同募金会で集約した後、翌年度に県内の福祉施設や社会福祉協議会へ配分され地域福祉活動に役立てられます。

このような事業に使われています



一戸町共同募金委員会
一戸町社会福祉協議会内 (TEL 0195-33-3385)

2. 宅配食事サービス事業



高齢者等の見守りとバランスのとれた食の確保で安心安全な暮らしを応援します。

4. 長寿祝品贈呈事業



高齢者への敬意と長寿を祝い、高齢者福祉の充実を目指します。

1. ふれあい・いきいきサロン助成事業



住民の孤立防止、心身の健康維持のための地域福祉活動を推進します。

3. チャイルドシート無料貸与事業



子どもたちの健全育成を目指して子育て世代を応援します。

5. ボランティア活動保険助成事業



地域に根差した福祉活動を担う住民団体を支援し共に支え合う地域づくりを推進します。

一戸町共同募金委員会(一戸町社会福祉協議会内) / TEL 0195-33-3385



八木沢 田村文雄様(82歳) 亮子様(78歳)



上出ル町 土屋秀男様(85歳) トミエ様(78歳)



中里1 永田實様(83歳) 榮子様(78歳)

めおと 長寿祝い

2021

一戸町社会福祉協議会では、ご自宅で暮らす78歳以上のご夫婦を対象に、記念品(記念写真または商品券)を贈呈しています。今年度は総勢45組のご夫婦に贈呈させていただきました。その中から記念写真撮影をされたご夫婦を紹介いたします。
※順不同で掲載させていただきますのでご了承ください。
(年齢は7月1日時点)



姉帯 昆勝男様(79歳) トキ様(78歳)



奥中山4 西館勉様(78歳) ハルエ様(78歳)



田子 高間木一二三様(82歳) テル様(78歳)



沢田 三浦由太郎様(83歳) 和枝様(78歳)



西法寺 桂木義男様(84歳) ミチ様(78歳)



奥中山1 本木末太郎様(84歳) ヨコ様(78歳)



田中開拓1 柴内栄次郎様(83歳) 豊子様(78歳)



川又 清水功様(81歳) キヨ子様(78歳)

いちのへの認知症に関する

あれこれ

認知症初期集中 支援チーム



専門医への受診が上手い
かない、前向きになれない
時は、専門職がチームで対
応します。

認知症ガイドブック



認知症になっても一戸町で暮
らし続けるために必要な情報
をまとめました。

認知症カフェ



身近な場所で、より多くの
人に認知症に触れる機会を
提供します。

- オレンジカフェさくらの会
- 多世代交流カフェまるっと

認知症サポーター 養成



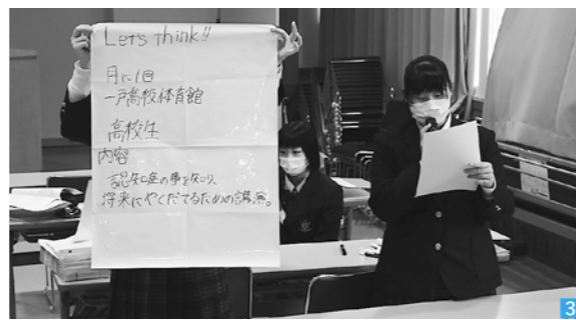
認知症のことを学び、認知症
のある人とその家族を支える
人を増やします。

声かけ見守り訓練



いつまでも安心安全に暮ら
し続けられる地域づくりに
向けて見守り体制を強化し
ます。

認知症に関する様々な
活動が行われています



1 高齢者にやさしい「いちのへ認知症キッズサポーター」
が誕生。2 認知症理解し、共に支え合う認知症カフェ。3
認知症のある方とその家族を支えるために意見を出し合う
一戸高校生。



特集

いちのへが
認知症にやさしいまちに
なりますように...

みなさんは
「認知症」について、
どんなイメージを
持っていますか？

現在、65歳以上の高齢者の4人に1
人が認知症またはその予備軍とされ
ています。今や認知症は、誰にでも
起こりうる病気となりました。

認知症になっても、住み慣れた地
域でその人らしく暮らし続けられる
地域づくりを目指すため、一戸町社
会福祉協議会は一戸町より「認知症
総合支援事業」を受託しています。

国が目指す認知症施策推進大綱に
基づき、認知症の発症を遅らせ「予
防」、認知症になっても希望をもって
日常生活を過ごせる社会の実現「共
生」に向け、様々な事業を展開して
いきます。

岩手県立一戸病院に
「認知症疾患医療センター」
が設置されました

今年4月に設置されました。もの忘
れ予防教室や重度認知症デイケアを
行いながら関係機
関と連携し、認
知症にやさしい
地域づくりの一
助となります。



認知症に関する相談や事業に関する お問い合わせ

一戸町社会福祉協議会
認知症地域支援推進員（小野寺）へ
(TEL 0195-33-3385)

気になることが
あればいつでも
ご連絡ください



9月は アルツハイマー月間です

国際アルツハイマー病協会と世界保健
機関は共同で、毎年9月21日を「世界
アルツハイマーデー」と制定し、この日
を中心に認知症の普及啓発活動を実施し
ています。

わが町でも認知症カフェ等を通じて、
認知症への理解を呼びかけています。



認知症サポーターキャラバン
マスコットキャラクター
「ロバ隊長」

演劇で学ぶ認知症

町保育施設保護者会連絡協議会 演劇鑑賞会

一戸町保育施設保護者会連絡協議会は、7月29日、町内5つの保育施設に通う4～5歳児96名を対象に演劇鑑賞会を開催しました。

今年は、カシオペア権利擁護支援センター（小井田潤一理事長）が管内の福祉関係機関と共に組織する「劇団友蔵と仲間たち」に演劇を依頼し、認知症の普及啓発劇「まるこ、おとしよりをすくう」という内容で行われました。

演劇を鑑賞した子どもたちには、「認知症キッズサポーター」の証としてキーホルダーが手渡され、困っているお年寄りがいたら「温かい気持ちで、ゆっくりと、笑顔で」接することを約束しました。



1 お年寄りへの接し方を楽しみながら鑑賞。
2 「劇団友蔵と仲間たち」よりキーホルダーのプレゼントを受け取る子どもたち。

夏の思い出をみんなで

小鳥谷学童クラブ 夏休みお楽しみ会開催



夏の風物詩を思う存分楽しみました。

小鳥谷学童クラブでは、8月5日、お楽しみ会を開催しました。夏休み恒例の「流しそうめん」では、流れていくそうめんをどんどん口に入れていく子ども達。あっという間にお腹がパンパンになるほど食べていました。スイカ割りも行い、割ったスイカは食後のデザートとして美味しくいただきました。夏ならではの行事を楽しみ、暑かったこの夏も元気に乗り切りました。

全身で色合いや感触を楽しんで

小鳥谷保育所 ボディペインティング



絵の具の感触や色の変化に驚きや発見がたくさんありました。

小鳥谷保育所の園児13名は、8月6日、ボディペインティングを行いました。

「何これ？」と手を入れて絵の具の感触を確かめ、様々な色を混ぜて色の変化に発見や驚きの表情を見せていました。真夏の太陽の下、自分の体に色を塗ったり、お友達と体に色を塗りあったり、絵の具のついた顔を見合わせ大笑いしたりと、夏だけの遊びを思い切り楽しみました。

認知症を理解し共に支え合う 多世代交流カフェまるっと in奥中山開催



羊毛で認知症サポーターキャラバンマスコットキャラクター“ロバ隊長”を作成。

町地域包括支援センターと町社会福祉協議会は、8月19日、気まぐれ工房め〜め〜亭(中山大塚363)で多世代交流カフェまるっと in 奥中山を開催しました。

近隣住民7名が訪れ、認知症サポーターキャラバンマスコットキャラクター“ロバ隊長”を羊毛で作成するワークショップなどを行い、認知症について触れながら住民同士の交流を楽しみました。

みんなでやってみよう!! 訪問助け合いボランティア 養成講座開講

7月26日～27日、一戸町総合保健福祉センターを会場に「一戸町訪問助け合いボランティア養成講座」(主催一戸町包括支援センター)を行いました。

当日は、町内より9名が受講し、講義や助け合い体験ゲームを交えたグループワークなど楽しみながら学びました。2日間の全カリキュラムを受講した方には、町地域包括支援センター村中昭一所長より修了証が手渡されました。

修了後活動を希望された方については、今後、一戸町訪問助け合いボランティアすける'sの一員として生活支援を主としたボランティア活動を開始する予定です。



「助け合い」を体験するカードゲームを行う受講者たち。

孤立防止と介護予防を目指して

上女鹿老人クラブ ふれあい・いきいきサロン事業開始



介護予防を意識したシルバーリハビリ体操を行いました。

上女鹿老人クラブ老友会(沼台景子会長)は、今年度より新たにふれあい・いきいきサロン事業への取り組みを開始しました。

今年度2回目のサロン開催となった7月30日には、地域の高齢者6名が奥中山高原温泉に集い、血圧測定などの健康観察を行った後、シルリハー戸えがおの会(中村富美子代表)指導の下シルバーリハビリ体操で身体をほぐしました。

社協からののお知らせ

生活福祉資金教育支援資金のご案内

低所得世帯等を対象に、高校、大学、短大、専門学校への就学に際し必要な経費として、授業料や通学費用等就学に必要な経費を無利子で貸与する制度です。詳しくは下記までお問合せください。

資金の種類と内容

種類	用途内容の例	貸付限度額	据置期間	返済期間	貸付利子
教育支援費	学校教育法に規定する高等学校、大学、高等専門学校に就学するのに必要な経費	高校 月額 35,000 円以内	卒業後 6ヶ月以内	20年以内	無利子
		高専 月額 60,000 円以内			
		短大 月額 60,000 円以内			
		大学 月額 65,000 円以内			
就学支度費	学校教育法に規定する高等学校、大学、高等専門学校に就学するのに必要な経費	500,000 円以内			

必要書類：借入申請書、住民票、世帯の所得が分かる書類（所得証明書、給与明細書、年金証書等）合格通知書または在学証明書、就学費が分かる書類など

問い合わせ：一戸町社会福祉協議会（TEL 0195-33-3385）

認知症カフェのご案内

より多くの人に認知症について知り、理解をしていただくために認知症カフェを毎月開催しております。10月の開催は下記の通りです。皆様の参加をお待ちしております。（状況に応じて変更、中止となる場合があります。）

▶多世代交流カフェまるっと

日時：令和3年10月23日(土)午前10:00～12:00

場所：カフェ里やま(小繋東田子2-2)

問い合わせ：一戸町社会福祉協議会
(TEL 0195-33-3385)

表紙の紹介



シルリハー戸えがおの会（中村富美子代表）は、毎月第1金曜日に一戸町コミュニティーセンターでシルバーリハビリ体操の指導、普及啓発活動を行っています。

「えがおの会」の名のごとく、明るい笑顔が素敵な女性スタッフの皆さんに、元気とパワーを貰える集いの場でした。（関連10ページ）

一戸町砂森エリアで見守り声掛け訓練のお知らせ

認知症見守り声かけ訓練をイコオショッピングセンター、一戸小学校周辺、花の丘公園、一戸町総合福祉センター周辺を使用し行います。

安全確保に十分な対策をたてて進めて参ります。大変ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

日時：令和3年10月2日(土)午前9:15～午後12:15
(雨天時、規模を縮小し開催予定)

問い合わせ：一戸町社会福祉協議会
(TEL 0195-33-3385)



おげんき・見守りシステムご紹介

「今日も元気にしているかな？」離れて暮らしている高齢の家族のことが気にかかりませんか？社会福祉協議会では、ご自宅の電話機を活用したおげんき・見守りシステムを実施しています。お気軽にお問い合わせください。

システムの内容：利用者がご自宅の電話機から指定の番号へダイヤル。音声ガイダンスにしたがって健康状態を発信します。発信した情報は、登録したご家族と社会福祉協議会の携帯電話へメールとして届きます。

利用料：設定無料 ※発信時通常の電話料金がかかります。

問い合わせ：一戸町社会福祉協議会
(TEL 0195-33-3385)



1シルバリーリハビリ体操教室の様子。2参加者を明るい気持ちにさせる濃いピンク色のポロシャツと「えがお」の文字。



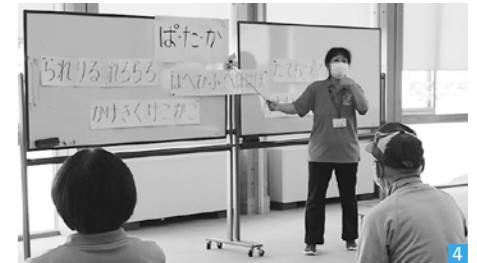
つながる地域 つなぐて・とて part 9

シルリハー戸えがおの会

かつて一戸では当たり前だった活気ある地域づくり。誰もが自然に手を差し伸べ合い、助け合える地域づくり。そんな光景を再び一戸に取り戻したい…。社会福祉協議会は、住民が手と手を取り合い支え合う地域づくりの実現を目指しています。

このページでは、町内の住民主体による活動によって地域が元気になり「つながり」が生まれていく様子をシリーズで紹介していきます。

まちに「えがお」と「元気」を届けるボランティア活動



3筋力アップの身体だけの健康ではなく、楽しく体操をして心も健康にと話す中村代表。（一番左）4「お口の健康は身体の健康」。嚥下機能を強化する体操も行う。

地域に少ないリハビリテーション資源を補うべく、岩手県ではシルバーリハビリ体操指導者養成事業を実施している。シルバーリハビリ体操とは、リハビリ専門職が治療に使う運動を体操化したもので、いつでもどこでも1人でもできる介護予防に効果的な体操と言われている。令和元年、ボランティア団体「シルリハー一戸えがおの会」（中村富美子代表）は、シルバーリハビリ体操による地域の介護予防の一助になるかと立ち上がった。医療や福祉の仕事に携わってきた人、地域活動に積極的に取り組んでいる人、身体を動かすことが好きな人など活動する理由は様々だが、どの人も「えがお」と「元気」がトレードマークの女性たち。シルバリーリハビリ体操の指導に携わる

活動後は毎回、反省会を兼ねたミーティングを行う。どのメンバーも、参加者が如何にしてその人らしく、無理なく楽しんでもらえるかを一番に考えている。1人1人違う個性を大切にしてくれる場所。活動に参加して感じた居心地の良さは、そこから溢れているのだらう。身体を動かすことが苦手な人でも、「えがお」と「元気」溢れる会場にいるだけで介護予防につながるに違いない。

シルリハー一戸えがおの会事務局
TEL 0195-332-3700
(一戸町地域包括支援センター内)

その人らしさを引き出し、1人1人を大切に集いの場

には、リハビリテーション専門職が行う講習を受ける必要がある。それでも地域のために尽力するメンバーの思いは一つ。地域住民がいつまでも元気で自分らしく暮らし続けてほしいから。

会の活動は、毎月第1金曜日の午前中に一戸町コミュニティーセンターで開催する教室や町内各地域で実施しているサロン活動での普及啓発など。コロナ禍において活動の機会は減少、参加者も決して多くはないが地道な活動を続けている。

各種相談日程表

	法律相談	多重債務相談	くらしの相談窓口	ふれあい相談
開催日	9月28日(火)	/	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・年末年始休み)	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・年末年始休み)
	10月12日(火) 10月26日(火)			
	11月9日(火) 11月24日(水)	11月16日(火)		
時間	10:00～15:00	10:00～15:00	8:30～17:15	8:30～17:15
場所	二戸消費生活センター (二戸合同庁舎内) TEL 0195-23-5800※要予約		二戸市総合福祉センター TEL 0195-43-3588	一戸町社会福祉協議会 (一戸町総合保健福祉センター内) TEL 0195-33-3385

寄付御礼

(令和3年7月～令和3年8月取扱分)
一戸町社会福祉基金への寄付

◆一岩会
会長 堀口泰男様
金 30,000円 也

頂きましたご寄付は、地域福祉事業の推進のため活用させていただきます。ありがとうございます。



読者プレゼント

本誌への感想や当協議会への意見など、アンケートに答えていただいた方の中から抽選で3名の方に一戸町の特産品(1,000円相当)をプレゼントします。

応募を希望される方は、①住所②氏名③年齢④電話番号⑤本誌への感想や当協議会に対する意見などを明記の上、はがきまたはメールにて編集係までお送りください。発表は、発送をもって替えさせていただきます。

編集後記

澄んだ秋空に、つい先日までのうだる様な暑さが懐かしく感じられます。運動会、敬老会、遠足…何をするにもちょうど良い季節。今年もまだ「例年通り」とはいきませんが、思考を凝らし今の時期でもできることを楽しみたい、皆さんにも楽しんでもらいたいと思います。ちなみに私は、子どもと絵を書く時間が増え、苦手だった絵が少し上手になったかも…!?皆さんのちょっと楽しい話や嬉しい話をぜひ教えてください。カメラを持ってお邪魔します。(小野寺)

災害義援金募集のお知らせ

社会福祉協議会では、被災された方々を支援するための義援金を次の通り受付しております。頂いた義援金は岩手県共同募金や日本赤十字社岩手県支部を通じて全額被災地の方々へ届けられます。皆さまのご協力をお願いいたします。

- ・令和3年7月大雨災害義援金
(受付期間：令和3年10月31日まで)
- ・令和3年台風第9号等大雨災害義援金
(受付期間：令和3年12月28日まで)
- ・令和2年7月豪雨災害義援金
期間延長(受付期間：令和4年3月31日まで)
- ・平成30年7月豪雨災害義援金
期間延長(受付期間：令和4年6月30日まで)

その他、国外義援金についても受付しております。一戸町社会福祉協議会(TEL 0195-33-3385)までお問い合わせください。

応募方法

▶ はがき

〒028-5312 一戸町一戸字砂森93-2
一戸町社会福祉協議会「広報ゆいっこ編集係」

▶ メール

ichinohe-shakyo@themis.ocn.ne.jp

社会福祉法人

一戸町社会福祉協議会

〒028-5312
一戸町一戸字砂森93-2
(一戸町総合保健福祉センター内)
TEL 0195-33-3385
FAX 0195-33-2737
ホームページ
<http://ichinohe-shakyo.jp/>

